令和４年度・連合会役員との連絡会及び第６回未来会議（全体会）
議事録

鹿ノ台未来まちづくり会議（未来会議）会長　　須都　紘
・　　副会長兼書記・広報　　伊藤　智子

日時：令和４年９月１８日（日）13:30～16:10

会場：ふれあいホール大集会室

出席者：（順不同、敬称略）

鹿ノ台自治連合会役員、顧問：７名（以上　連合会役員との連絡会のみ）
須都　紘（会長）、黒部　實（副会長）、伊藤　智子（副会長・書記・広報）
鎌田　卓（事務局長・会計）、田口　信義、中谷内　政之、鈴木　豊、山田　勲、
黒田　勝行、谷猪　富貴子、山田　修、平井　誠三、三室　哲哉
中尾　節子（オブザーバー）、矢倉　誠人（オブザーバー）
欠席：中世古　昭一、渡辺　昇、山地　祐輔、蔵田　かほり、

配布資料

連合会役員との連絡会

① 議題
② 自治連合会組織における「未来会議」の位置づけ（概念図）／「未来会議」と自治連合会」役員会の関係（概念図）
③ 鹿ノ台未来まちづくり：中期計画（案）骨子
④ 鹿ノ台未来まちづくり会議（未来会議）活動報告／チラシ「ボランティアさん募集の説明会」
⑤ 生駒市コミバス『たけまる号』鹿ノ台線実証運行乗車実績（人数）V2／生駒市コミバス『たけまる号』鹿ノ台線実証運行実績分析(令和４年８月)／生駒市コミュニティバス『たけまる号』鹿ノ台線　奈良テレビ取材・放映の件 V2／チラシ「鹿ノ台コミバスからお知らせ～乗ってみよう！コミバス」
⑥ 鹿ノ台自治連合会運営のイメージ／【結ネットの普及】／支え合い(準備)委員会の仕組み

連合会役員との連絡会

須都　未来会議会長より

・　連合役員会と未来会議は、連携を保つために年に数回、連絡会を開催することになっている。ただ双方の多忙さを考えると、年２回ほどの実施が現実的であろう。連絡会では、未来会議の活動の報告と情報交換、意見交換を行いたい。

・　今回より、６月から専門委員を務めてきた三室哲哉さん（南１丁目）が未来会議の構成員として参加する。また、本日よりオブザーバーとして、地域おこし協力隊や地方公務員を経て大阪大学特任研究員をされている矢倉誠人さん（生駒市桜ケ丘在住）が参加される。矢倉さんは、まちづくりの事例として奈良県に鹿ノ台を紹介されて傍聴されることになった。

田口　連合会会長より

・　連合役員会と未来会議の連絡会は、実際には年１度以上開催するのは難しいため、代表者５人ほどによる定期的な情報交換で代替することをご了承いただきたい。

・　未来会議の役割として、既存の自治会の委員会などでカバーできていない部分を将来にわたって担ってもらうということと、５年後のあるべき姿を描いて、そこからすべきことを考えるアプローチが考えられる。その両方を視野に入れて活動を行って欲しい。

自己紹介

・　連合役員の皆さんには、自治会長などの役割を担ってきた感想やご意見をお話しいただき、未来会議構成員からは取り組んでいる活動について話をした。

・　自治会長の皆さんからのご意見・ご感想：　／　お年寄りが多いので自治会活動がお年寄り中心になっていると感じた。／仕事が多忙な中なんとかやっている。／自治会活動と高齢の母の世話とで葛藤している。／評議員の方に温度差がある。もう少し評議員の負担を減らして欲しい。／会長の任期が早く終わって欲しい。／何か貢献できることがあればと考えて取り組んでいる。

未来会議の設立の目的と自治連合会との関係

自治連合組織における「未来会議」の位置づけ

- 未来会議準備委員会が令和３年１月に最終報告書を出した。その中で、連合会と新設される未来会議の関係、および「未来会議」と自治連合会「役員会」の関係を図式化している。
- 未来会議は、連合会会則１３条が規定している「特別委員会」として令和３年３月に発足し、現在まで約１年半活動してきた。その目的・趣旨は、3～5 年をめどに鹿ノ台のまちづくりについて考え、計画を立て、実行することである。
- メンバーは、各種委員会の代表者、各種団体の代表者、および一般公募から数名、それに連合会長と連合総務担当副会長である。１９名で発足し、現在は１７名である。分科会には、関係分野の見識をお持ちの方に専門委員として入っていただいている。中尾議員など、傍聴での参加者もおられる。

「未来会議」と自治連合会「役員会」の関係

- 未来会議の発足に際しては、選考委員会をつくって構成員の選考を行った。現在は、「未来まちづくり中期計画」を策定している最中である。昨年９月にその骨子ができあがり、現在それをさらに深掘りし肉付けしている。
  - 今後のプロセスは、「中期計画」を策定したら、連合役員会に報告し、承認を求める。次に、資金計画と工程表を含む「事業計画」を策定し、再度連合役員会の承認をいただく。その後、事業に着手し、実施後に連合役員会に報告をする。以後の実施体制については、実施主体も含め議論して決めていく。
  - このプロセスを通じて、さらには未来会議構成員として連合会長と副会長に入っていただくことで、連合役員会との連携を担保している。

鹿ノ台未来まちづくり：中期計画(案)骨子について

鹿ノ台の現状と課題

- 未来会議準備委員会および未来会議において、「鹿ノ台の現状と課題」について討議し、まとめてきた。

1. 住民の高齢化に伴うさまざまな課題： 2020 年時点で 65 歳以上の人口が 41.4%となっている。

2．　少子化・人口減少による課題：　鹿ノ台人口が 7103 人(2020 年)から 5459 人(2040 年)と 20 年で▲23.1%(生駒市推計)と予測されている。

3．　自治連合会に比して単位自治会活動が弱い。自治会長さんに多忙な方が多く、また単年で代わられる方が多いこと、住民に自治会活動に無関心な方が増えていることへの対応が必要である。

4．　ICT など先端技術の取り込みと活用による自治会活動の活性化と利便性の向上に取り組みたい。

鹿ノ台未来まちづくり：理念（まちの将来像）

・　「みんなでつくる　住みたくなるまち　鹿ノ台」とした。

・　「みんなでつくる」とは、自分たちのまちは自分たちでつくるのだという気概と主体性、それに皆がそれぞれできることをやっていこうという気持ちの表明である。

・　「住みたくなるまち」とは、環境・治安・子育て支援・交通アクセスなどさまざまな面から転入希望者にとって魅力的なまちにしていくということである。高齢者にとっては、交流・文化・助け合いを広げて、住み続けたくなるまちにしていくという意味である。また、鹿ノ台を思い出と誇りを持てる第二のふるさとにするという意味でもある。

鹿ノ台未来まちづくり：基本目標

・　下記の 5 点とした。

1．安全・安心・防災のまちづくり：　すでに実施している防犯カメラ設置、見守りパトロール、防災訓練などに加え、防犯のためにも空き地・空き家対策を講じる必要がある。

2. 子育てしやすいまちづくり：　転入促進の取り組みと、子どもの居場所・学びの場づくりの二つの活動を実施しており、かなり具現化している。

3. 花と緑豊かな癒しのまちづくり：　すでに ECOKA を中心に取り組んでいただいているが、それに加えて、中央公園の魅力向上などに取り組んでいきたい。

4. 高齢者にやさしい支え合いのまちづくり：　自治連合会傘下に「支え合い準備委員会」をつくり、検討を進めている。

5. 交流・賑わい・文化の香りのあるまちづくり：　８月の納涼祭、音楽祭、ミニコンサート、複合型コミュニティづくり（百コミ）などの活動を見直し、不足があれば実施していく。

6. 横断的な取り組み①：ICT 技術の普及・活用

7. 横断的な取り組み②：自治会組織の課題検証と再構築

・　この他、将来的な自治会または自治連合会の法人化について考えていく必要がある。また脱炭素社会のまちづくりについても勉強会を進めている。
・　課題の２（子育て）、４（高齢者）、６（交流・文化）について分科会を設け、課題の深掘りを行い、中期計画(案)骨子に具体的な肉付けを行っている。

鹿ノ台未来まちづくり会議（未来会議）活動報告

令和３年の活動

・　広報誌「みらい」の発行：　連合 WEB サイトへの議事録・資料の掲載に加え、「みらい」通信を２回発行した。１号では未来会議の目的・趣旨と発足のお知らせ、構成員・役員の紹介などを行った。２号では、中期計画(案)骨子の内容と、それまでの活動および転入促進対策の活動について報告した。
・　転入促進対策：　ハウスメーカーや不動産業者への聞き取り調査を行い、鹿ノ台の魅力や課題について分析を行った。また、鹿ノ台の魅力を伝えるチラシ「子育てするなら鹿ノ台」を作成した。自治会に回覧した他、奈良県北部への転入希望者に鹿ノ台を紹介していただくため、ハウスメーカー、不動産業者、ハウジングセンターなどにご活用いただいている。
・　連合 WEB サイトのリニューアル：　連合 WEB サイトは自治会員への情報提供や交流を目的としている。そこに転入促進という目的も追加し、鹿ノ台について検索して WEB サイトを見にこられる外部の方に鹿ノ台を魅力的に紹介する役割も果たせるよう改革したいとの提案を取りまとめた。連合ホームページ委員会とも話し合い、現在は、連合ホームページ委員会に未来会議構成員３名が委員として参加し、リニューアル作業にあたっている。

令和４年の活動

・　「脱炭素まちづくり」勉強会：　環境モデル都市にふさわしいまちづくりを目指すため、有志で勉強会を月一回実施している。

分科会の活動（令和３年１０月～令和４年８月）

・　交流分科会：　４月２日に「森のコンサート」を実施した。分科会メンバーがミュージシャンに呼び掛け、ボランティアベースで出演していただいた。櫓などは組まず、西側の石のステージでコンサー

トを行った。各桜美会の花見も重なり、８００人ほどが参加した。初めての試みであるキッチンカーの出店も若い層に大変人気があった。新聞や生駒市の広報 WEB などにも取り上げられ、市長の参加もあり、盛況であった。たくさんの協力者のお陰で、総予算 15,000 円ほどで実現した。

・　子育て分科会①：　子どもの居場所づくりを検討してきた結果、今年６月より鹿ノ台小学校で「放課後子ども教室にじ」を毎週水曜日に実施している(事業主体は子育て分科会から独立)。場所とスタッフの都合で定員 30 名にしたが、66 名の応募があったため、過半の方にお断りしなければならなかった。普段の活動は、前半が「宿題タイム」後半が「お楽しみタイム」である。月に１度ほど外部講師に来ていただき、体操や走り方を教えて頂いたり、プロの打楽器奏者に来ていただいて叩き方を習ったりしている。

・　子育て分科会②：　中央公園の魅力向上プロジェクトとして、転入促進と公園の利用促進を目的としたアンケート（小・中学校と自治会員が対象）を実施し、その結果に基づいてワークショップを実施することを予定している。これまでの公園利用者への聞き取りでは、健康器具や「あずまや」など、設備的な希望があったが、新たな広場の活用方法など、設備新設だけにとらわれずに提案をまとめていきたい。

・　子育て分科会③：１１月６日にふれあいホールといきいき広場で、子供向けのクラフトやスポーツのイベント「たけのこ　ふれあい in しかのだい」をチームたけのこと共催する。

・　高齢者分科会：　昨年より、高齢者の課題に取り組んできた地域の委員会や団体との話し合いや研修を重ねてきた。そうした活動を通じて、日常生活で高齢が困っていること、必要としていることをリストアップし、対策や実施主体について検討を重ねてきた。その結果、連合傘下に「支え合い準備委員会」が設立され、今後、身体の不自由な方や地域に出にくい方で困りごとをお持ちの住民を対象に、「困りごとサービス」事業を立ち上げることとなった。今月からニーズ調査とボランティアさんの募集を行い、年明けから利用者に案内を行っていく予定である。

鹿ノ台コミバス８月の乗車実績について

・　8 月から実証運行を開始したコミバスは、月・水・金の週３日、9:40～15:05 まで１日８便運行している。８月は 14 日間運行し、乗

車人数合計は 663 人で、1日当たり平均 47.4 人である。1日 60 人が目標だが、達成したのは4日間のみであり、当初予想よりも厳しい結果である。

・　詳しく見ていくと、午前中の乗車が 60%(399 人)で、午後の乗車が 40%(264 人)だった。用事は午前中に済ませたいという生活習慣と猛暑の影響が考えらえる。

・　いきいきホール前での降車は 12%(78 人)、つじもと医院前での降車は 4%(26 人)である。鹿ノ台内の移動に 190 円の運賃は高いという意見もある。

・　登美ヶ丘までの乗車は 267 人(全体の 42%)で、その内訳は午前中の利用が 76%、午後の利用が 24%、登美ヶ丘からの乗車は 269 人(全体の 41%)で、その内訳は午前が 35%、午後が 65%であり、午前に登美ヶ丘に出かけ、午後に鹿ノ台に戻ってくる人が多い。

・　鹿ノ台の内部で乗車された方(登美ヶ丘からの乗車といきいきホール前での乗車を除いた人数)は 330 人(全体の 59%)で、乗車の内訳は東地区からが 32%、西地区からが 24%、南地区からが 14%、北地区からが 30%で、南地区からの乗車が少ない。

・　今後の対策として、①奈良テレビ「ゆうドキッ！」取材の活用(取材は9月28日9:40登美ヶ丘発コミバス第1便に撮影クルーが乗車、コミバスといきいきホールを取材する。放映予定日は 10 月 21 日夕方 6 時～)、②チラシ「鹿ノ台コミバスからお知らせ」（裏面は時刻表）の各戸配布を予定している。

・　コミバスについては、5年前の住民アンケートで必要だとする意見が多かった。生駒市では既にコミバスが5ルート運行しており、6ルート目を鹿ノ台にという市の意向もあり、協議会での検討を経て実証運行にこぎつけた。

・　実証運行の期間は1年間であり、その後の本格運行への移行の可否は、地元の意向に基づき、協議会が利用ニーズがあったかどうかという視点から判定する。基準は市の負担が運行経費の 70%未満であり、それを上回った場合には本格運行への移行は見直すことになる。

・　年間の運行経費のうち、市が上限 70%を負担し、残りを乗車運賃と一部連合会の負担で回収することになる。これを乗車人数に換算すると、1日 45 人～50 人の乗車が最低ラインである。

・　今は乗車人数が少なくても、免許を返上する人が増える将来には、多くの人が必要とするだろう。その時になってコミバスが欲しくても、今維持できなければ次はない。地域の将来のために、できるだ

け利用してほしい。

・　乗車促進策として、東1丁目自治会からのご意見に基づき、火曜や、朝と夕方に運行することが可能かどうか奈良交通とも検討を進めていく。他の自治会からも、乗車促進策を取りまとめていただき、提案していただければ有難い。

自治連合会役員から未来会議への要望・提案など

・　自治連合会は、11単位自治会や17条委員会等各団体、13条特別委員会（未来会議）などなど、さまざまな団体の活動に支えられている。昨年は二つのIT/ICTに関する委員会が立ち上げられ、今年は支え合い準備委員会が発足した。

・　複合型コミュニティづくり（百コミ）も北で始まり、東でも準備が進んでいる。先々は、南と西でも取り組みが行われ、これが中央のいきいきホールのサロン活動とリンクしていけば良いと思う。

・　昨年度より「結ネット」を試験的に採用している。現在は420世帯が参加している。特徴は、迅速性、双方向性、記録性、連携性（安否確認など）であり、その連携性を生かした新しいつながり、新たな活動が可能となることである。

・　「結ネット」は活動期間10か月で発信総数は300件。だが、参加世帯は鹿ノ台の世帯総数の2割に満たない。登録数拡大のためには、「支え合い」や「防災会」の活動に目に見える形で生かせる仕組みや、商店街を巻き込む仕組みをつくる必要がある。

・　支え合い(準備)委員会では、フレイル気味の人／地域に出にくい人で、困りごとを持つ人を対象に、支えの手を差し伸べる活動を検討している。ゴミ出しなどをお手伝いする「困りごとサービス」に加えて、将来的には傾聴やコミュニティナースの講習会などを受けて、住民の孤立や不安などに寄り添う活動ができれば良いと思う。

・　こうした活動はICT技術と親和性がある。一例として、阪大の「社会的孤立等に対するデジタル・サイエンス」（家電にセンサーを取り付け、タブレットで顔認識し、情報処理する）という社会実験を12月から鹿ノ台で行っていく。

・　9月13日～15日に、「支え合い」に関する自治会アンケートを「結ネット」でも行った。3日間の集計で、既読126人で42人から回答があった。結ネット参加者なので、電子回覧に対するニーズが35件と高かったが、その他にもちょっとした家事手伝い等へのニーズを少数だが確認できた。全戸配布のアンケートとの関係性を確認す

るための取り組みである。

・　ICT の活用は一つのアプローチに過ぎないが、生駒市スマートシティの取り組みなどもあるので、未来会議でも自治会の課題解決への ICT の活用について検討を進めて欲しい。

・　電子回覧に関しては、紙ベースの回覧と並行する形で実現していきたい。(情報共有として、南１丁目７ブロックは１名を除き連絡事項を LINE で行っている／南２丁目では評議員への連絡は LINE を活用し始め、20 名中１名以外は参加している。)

未来会議構成員からの質問；　支え合い委員会の仕組みの説明に、「単位自治会・連合会・関連団体が一体となって推進」とあるが、単位自治会の仕事は何を想定されているか？

田口連合会長；単位自治会に置かれている福祉担当委員に、支え合い委員会との連携会議に参加していただき、趣旨を理解していただき、単位自治会との架け橋になっていただく。あるいは可能なら「困りごとサービス」のボランティア事業に一緒に参画していただくなどを想定している。

矢倉氏より：生まれ育った桜ケ丘に戻って暮らしているが、鹿ノ台のように地域の課題を抽出し、高い意識をもって取り組んでいる地域はなかなかないので、参考にしていきたい。

第回未来会議（全体会議）

配布資料

令和４年度第６回未来会議

⑦ 議題

⑧ ２０２２年度　未来会議構成員名簿(改)

⑨ 鹿ノ台未来まちづくり：中期計画（案）骨子

⑩ 分科会「高齢者にやさしい支え合いのまちづくり」

⑪ ボランティアさん募集の説明会(チラシ案)

⑫ 子育て分科会報告

⑬ 公園・夢プラン対象２０２２　応募(案)

⑭ 第二回ソーラー発電(脱炭素まちづくり)勉強会　議事録

⑮ 第三回ソーラー発電(脱炭素まちづくり)勉強会　議事録

・　連合会役員が退席し、未来会議構成員のみで引き続き未来会議が開催された。
・　2022 年度未来会議構成員名簿（改）の内容に誤りがないかどうか確認した。

分科会「高齢者にやさしい支え合いのまちづくり」

・　8 月 24 日に開催した全世話人会議では、支え合いボランティア募集チラシの内容について検討した。今後、微修正を経て 3000 部印刷し、ボランティア説明会を 11 月 13 日(日)13:30～14:30 に行う。
・　「困りごとサービス」の対象者は、身体の不自由な方や地域に出にくい方で困り事をお持ちの住民の皆様とした。令和 4 年度の防災会による「避難困難者」調査と同時に、「支え合い準備委員会のアンケート」調査を行う。
・　困りごとを有する皆さまへのチラシは、全世帯に配布する。
・　準備委員会の「準備」が取れるのは年明けと考えている。
・　業務の概要は、チラシの A（ゴミ関係）、B（室内外）、C（屋外）の作業となっており、来年初頭の事業開始時には「その他・検討中の項目」(心の不安、相談・話し相手、食生活支援等)については業務対象に含めない。この項目については専門性が必要であるため、連合会長が中心となり、研修などを実施して体制を整えていく。
・

質問：サービス対象者となれるかどうかの判断は誰がするのか？
回答：自己申告や周りの人の判断で良いと思うが、申し込みがあった場合はどなたであっても原則として受けたい。ただし、ボランティアの対応能力を超える件数の申し込みがあった場合は、相手の方の状況によってはお断りする場合も出てくるかもしれない。

分科会「子育てしやすいまちづくり」

親子で参加できる休日イベントの共催

・　11 月 6 日のイベントには、たけのこメンバーと生駒市生涯学習課から合わせて 20 名程度参加していただける。
・　現在作成中のチラシとポスターを小学校・幼稚園・保育園・こども園に配布し、QR コードで申し込んでもらう。無理な場合は学校・

園に申し込む。当日申し込みも可。

・　10 月の「いこまち」に案内が掲載される。

中央公園の魅力向上プロジェクト

・　ヒアリングした結果、子どもたちからはシーソー、ブランコ、鉄棒など、お母さんからは小さい子が遊べる砂場や大人が座れる「あずまや」などの希望があった。その他、健康器具やインスタ映えするスポットなどを希望する人もいた。

・　コーナーを分けて住み分けたらどうか、という意見もある。

・　ワークショップに来た人だけで決めてよい話とは思えないため、事前にアンケートを実施することにした。アンケートの内容は、同じ趣旨で大人向けと子どもに分かる文章のものと、2 種を 10 月の分科会で作成する予定である。アンケートの前文には、転入促進のため魅力向上と利用促進が趣旨であると書き込む。

・　中央公園に、街区公園（の遊具など）を紹介する案内板を設ける案も出ている。

意見：

・　遊具が揃っている街区公園と中央公園の位置づけは違う。そのことは皆さんに認識してもらいたい。ただ、皆さんの議論を聞いてきて、緑の景観を壊さない形で、場所を選んで「あずまや」やターザンロープを設置しても良いかもしれないと思うようになった。

・　中央公園のモニュメントには「音楽と彫刻の広場」と書かれている。そうした趣旨でつくられた中央公園を、どのように子どもたちと親和性の高い公園にするかが課題だと思う。

・　イモ山公園には「あずまや」がある。また、道沿いに遊具があり、その後ろが山で、その奥にターザンロープがあり、川もあって遊べる。複合的で、いろんな人が楽しめる公園になっており、参考になる。

・　四季の森公園は、運動公園と街区公園と中央公園のような公園が一緒になったような公園である。生駒市も、その辺の区分けはあまり厳密に適用していないのではないか？　⇒　法律的には厳密に分けられている。

・　連合は、中央公園の階段に手すりを付けて欲しいと生駒市に要望している。

・　中央公園で夜遊びをしている子どもたちがおり、ゴミが散乱している。毎朝、散歩の際に片づけるが、きりがない。単車で乗り付ける人もいる。

・　美鹿の台でも公園のゴミ問題がある。市の青少年指導委員会では夏休み前に公園の使い方についてチラシを学校に配布している。子どものものとは思えないゴミもあるので、地域住民にマナーを守って欲しいと伝える必要がある。
・　小学校東門前の中央公園（藤棚周辺）は、暗い印象があるので、そこに新たな設備なりを設置して人が集い、印象を変えられれば良い。人が使っていないと荒れる。
・　公園でのマナー違反や夜間の治安への不安に対しては、まずは住民の意識向上を呼び掛ける必要があり、警察にもパトロール強化などをお願いしたい。

質問：　生駒市の昨年 10 月更新の WEB ページに「生駒小学校の放課後子ども教室こだま」が市内 2 例目とあるが、鹿ノ台小学校の「にじ」は載っていない。
返答：　「にじ」は 3 例目として、今年 6 月に発足したので後日紹介されると思う。

分科会「交流・賑わい・文化の香りのあるまちづくり」

公園・夢プラン対象２０２２　応募案

・　一般財団法人「公園財団」が主催し、一般社団法人「日本公園緑地協会」が共催している賞（９月末〆切）に応募したい。賞金は 10 万円。

中央公園の西側ステージ周辺への電源設置の要望

・　森のコンサートでは自主電源を確保したが、今後のイベント開催のことを考えると公園に電源が欲しい。現在は夜間の電灯用だけが稼働しているが､昼間に１００Ｖ電源を使えるようにして欲しい。生駒市みどり公園課に要望を出す。

ソーラー発電（脱炭素まちづくり）勉強会（第二回、第三回）

・　6 月から月 1 回行ってきた勉強会で、環境問題の歴史や、気候変動枠組み条約（IPCC）の推移などを勉強した。日本は、2013 年の温室効果ガス排出量を 2030 年に 46%削減し、2050 年にネットでゼロとする公約している。他方で、欧米では、技術と資金を投じて自分たちに都合のよい法制度を整備しつつある。この新たなビジネス環境

に日本企業がどう食い込んでいくかが課題となっている。

- ２月の未来会議で報告したソーラー発電事業計画について、収益計画や資金フローの面から勉強会で再度詳しく説明した。この事業計画が「収益事業」なのか「自家消費用」なのかで租税公課が全く違う。これについて 9 月 29 日の勉強会で中間報告をしたい。
- いこま市民パワー（ICP）は、生駒市関連の 6 施設との契約を打ち切った。燃料価格高騰により不採算となった契約からの撤退である。生駒市は 2025 年より、TJ ホールディング(大東市)が生駒市に新設するバイオマス発電事業から電力供給を受ける。これにより生駒市の再生エネルギーの割合は 10%→40%に増加する。ICP は、安定供給を受けるために TJ ホールディングに株の一部を譲渡した。ただ、バイオマス発電は廃棄物を利用するエコな電源だが、設備投資が高く、再生エネルギーでは唯一原材料費がかかるため運転コストも高い。
- ICP は、太陽光発電の固定買取制度（FIT：10 年間で終了）が終了した個人から電気を買い取り、再生エネルギー比率をさらに上げようと計画している。鹿ノ台の方も ICP への売電を検討してほしい。
- 政府の第六次エネルギー基本計画では、2030 年までに再生エネルギーを 37%、原子力を 21%と、「クリーンエネルギー」の割合を合計 48%に引き上げるとした。これを達成するために補助金などさまざまな手段が講じられるだろう。

次回

日時

10 月 22 日（日）13:30 – 16:00

第 4 日曜日であることに注意！

「東西」の構成員及び幹事は 13:15 集合

会場

西集会所

以上